

メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第一5:12~15 「兄弟たちへの勧め」

[12-13]「兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。お互いの間に平和を保ちなさい」

パウロは11節で「互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい」と言ったが、この12節からはさらにそのことを具体的、実践的に勧めていく。この勧めは直接的にはテサロニケ教会の人々に対してであるが、さらに広い意味ではすべての教会、すべてのクリスチャンに当てはまる。

そこには指導者が立てられているが、彼らがどういう働きをする人なのかがわかる。

①あなたがたの間で労苦する ②主にあってあなたがたを指導する ③訓戒する

①の「労苦する」とは使徒としてのパウロの生き方に代表されるような福音宣教に関する働きであり、人々のたましいを救いに導き、教会を形成し、成長させ、完成に導いていく働き。

②の「指導する」は「主にあって」とあるようにその霊的権威は主によるものである。彼らはこの主からの権威にもとづいて指導する。しかし、それは威張ったり、高圧的になったりすることを意味しない。彼らは自分自身が土の器であることを自覚し、ただ神の召命に答えて謙遜に兄弟姉妹たちを指導するのである。③の「訓戒する」も同様にその権威は主によるものであり、誤った道を歩もうとする者に忠告し、悔い改めへと導く働きである。

彼らは教会に立てられている牧師、長老、執事、役員と言える。しかし、この世の組織と違って彼らは教会の兄弟姉妹たちの上に君臨するのではなく、かえって彼らに仕え謙遜に指導し、奉仕をするのである。教会の兄弟姉妹たちも、そのように主にあって立てられ、奉仕している人々を愛をもって深い尊敬を払い、認めなければならない。教会は立てられている指導者、働き人たちのために愛をもって祈り、支え、欠けを補い合っていくことが大切。それによって教会はお互いの間に平和が保たれ、一致が生み出され、大きく成長することができるのである。→ヘブル13:17

[14]「兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい」

さらにパウロの勧めは続く。ここに出てくる戒め、励まし、助け、寛容であるというのは教会の指導者たちだけに求められていることではなく、教会の兄弟姉妹すべてに当てはまることなのである。

「気ままな者」…任務を続けず隊列を離れる兵士のことが原意で、そこから転じて、自分の仕事もせず、ぶらぶらして他人の世話になっている者のこと。こういう人は戒められなければならない。「小心な者」…これは臆病というよりも、さまざまな不幸な出来事や罪のために落胆している人のこと。彼らは励まされ、元気づけられる必要がある。「弱い者」…肉体的弱さではなく、信仰において弱い者のこと。彼

らは信仰的に助けられ強められなければならない。→ローマ14:1

さらにも取るべき態度として根本的なことは「すべての人に対して寛容でありなさい」である。

寛容とは、すぐに怒ったり、さばいたり、批判したりしないで愛と忍耐をもって接すること。

これは信仰者どうしだけでなく、それ以外のすべての人に対しても取るべき態度である。そして、それこそ主イエスに従う者としてふさわしい生き方である。

[15]「だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うよう努めなさい」

これは回りから迫害を受けていたテサロニケ教会の人々にとって特に重要なことであった。やられたらやりかえすのではなく、主イエスご自身がことばと行いによって教えられたことにならうのである。→マタイ18:21~22　そしてさらに積極的に善を行うことに努めるのである。

「善」とはこの場合。他の人々の助けとなり、益となり、役立つことを指す。信仰の兄弟姉妹に、また、他のすべての人々に対していつも善を行うように努力することが大切。たゆまずいると、やがて良い実を刈り取ることになる。

私たちがこのことを主により頼みつつ実行していく者とならなければならない。